



月報だよりの原稿は毎月 20 日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。e-mail で jimuj@geppou.asj.or.jp 宛。
なお、原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 迄お送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

東北大学大学院理学研究科天文学専攻教官

1. 助教授 1 名
2. (1) 東北大学大学院理学研究科天文学専攻 天文学講座
(2) 東北大学大学院理学研究科（仙台市青葉区）
3. 天文学
4. 理学研究科ならびに理学部における天文学の研究、教育、運営
5. (1) 平成 15 年度のできるだけ早い時期
6. 大学院博士課程修了または同等以上
7. 履歴書、研究歴、業績リスト、主要論文（5 編以内）、研究計画書、本人について意見を述べられる方 2 名の氏名と連絡先
8. 2003 年 6 月 30 日(月) (必着)
9. (1), (2)
〒 980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉
東北大学大学院理学研究科
天文学専攻長 関 宗蔵
Tel: 022-217-6503 Fax: 022-217-6513
E-mail: seki@astr.tohoku.ac.jp
10. 応募書類は封筒に「親展」と朱書し、簡易書留で送付のこと

研究助成

(財) 井上科学振興財団、第 20 回井上學術賞・研究奨励賞の受賞候補者

(財)井上科学振興財団（西川哲治理事長）は第 20 回（平成 15 年度）井上學術賞、研究奨励賞の受賞候補者の募集をしております（◎は共通です）。

第 20 回井上學術賞

1. 概要：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた 50 才未満の研究者に対し、學術賞（賞状及び金メダル、副賞 200 万円）を贈呈する。
2. 受賞件数：5 件以内
3. 募集方法：指定の関係 30 学会、及び財団の役員・評議員等からの推薦
4. 推薦件数：1 件
5. 推薦締切日：平成 15 年 8 月 20 日(水) 学会着
6. 申込用紙の必要な方は天文学会事務所まで

第 20 回研究奨励賞

1. 概要：平成 12～15 年度の過去 3 年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の分野で博士の学位を取得した 35 才未満（医学・歯学・獣医学の分野については 37 才未満）の研究者で、自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出した研究者に、賞状及び研究奨励賞金 50 万円を贈呈する。
 2. 受賞件数：30 件
 3. 募集方法：博士論文を指導した研究者の推薦に基づき、学位を授与した大学の学長からの推薦、井上科学振興財団へ直接。
 4. 推薦締切日：平成 15 年 9 月 20 日(土)
- ◎照会先：財団法人 井上科学振興財団
〒 150-0036 東京都渋谷区南平台町 15-15
南平台今井ビル 601
Tel: 03-3477-2738 Fax: 03-3477-2747

研究助成結果

NPO 法人日本スペースガード協会 研究助成

研究題目：小惑星のフォローアップ観測

研究代表者：丸岡一洋

助成金額：400,000円

研究会・集案案内

国立天文台水沢施設公開案内

期 日：平成 15 年 6 月 14 日(土)

場 所：国立天文台水沢観測センター
岩手県水沢市星が丘町 2-12

Tel: 0197-22-7111

公開時間：10 時～16 時

公開施設：VERA 関連施設，10 m アンテナ，木村記念館など

講演会：11 時～12 時

「何がチャンドラーウオブルを揺さぶっていたか？」－答えは風の中に－

講師 国立天文台教授 内藤勲夫

その他：ビデオ上映会，実演コーナー，展示コーナー，クイズコーナー，実紋コーナー

一天文学講演会・南天に広げれ宇宙ロマン 10－

宇宙の新しい素顔をさぐる

－アルマの実現にむけて－

20 世紀，宇宙の研究はすばらしい飛躍をとげました。21 世紀には，アンデスの高地に大型サブミリ波干渉計「ALMA」，サブミリ波望遠鏡「なんてん 2」などの新望遠鏡が集結し，新しい宇宙像を開拓しようとしています。この講演会では，最新の画像を駆使して，テレビなどでは取り上げられない宇宙研究の成果とこれらを，第一線の天文学者がわかりやすく解説します。

◆名古屋会場

日 時：平成 15 年 6 月 28 日(土) 13:30 開会
16:30 閉会会 場：名古屋大学豊田講堂（名古屋市中種区不老町）
定 員：800 名

◆大阪会場

日 時：平成 15 年 6 月 29 日(日) 13:30 開会
16:30 閉会

会 場：アピオ大阪小ホール

（大阪市中央区森ノ宮中央 1-17-5 JR 環状線又は地下鉄中央線・長堀鶴見緑地線「森ノ宮駅」下車すぐ）

定 員：300 名

◆東京会場

日 時：平成 15 年 7 月 12 日(土) 13:30 開会
16:30 閉会

会 場：一橋記念講堂（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター 地下鉄「竹橋」駅または「神保町」駅 徒歩 5 分）

定 員：400 名

講 師：福井康雄（名古屋大学大学院 教授）他

参加費：無料

参加方法：当日各会場とも先着順とさせていただきます。定員オーバーの節はご了承ください。

連絡先：〒464-8602 名古屋大学大学院理学研究科
天体物理学研究室

Tel: 052-789-2839 Fax: 052-782-3951

E-mail: higuchi@a.phys.nagoya-u.ac.jp

主 催：名古屋大学なんてん電波天文台

名古屋大学大学院理学研究科*

国立天文台 ALMA 計画推進小委員会

(*は名古屋会場のみ)

後 援：名古屋大学星の会

「君が天文学者になる 4 日間」

参加者募集のお知らせ

国立天文台

今年も高校生または相当する年齢の方を対象に，「君が天文学者になる 4 日間」の体験学習生を募集しています。

天文・宇宙に関心を抱く高校生の皆さん，国立天文台三鷹キャンパスで 4 日間の研究活動を体験しませんか。関心のある方は，下記の要領にてご応募ください。

日 時：7 月 23 日(水)10 時～7 月 26 日(土)12 時
(3 泊 4 日)場 所：国立天文台三鷹キャンパス
(東京都三鷹市大沢 2-21-1)

対 象：高校生または相当年齢の方 16 名

参加費：1 万円程度（4 日間の宿泊費，朝食・夕食代，

傷害保険料含む) このほか、各自、会場までの交通費、昼食・夜食代などが必要です。

応募方法: 「私が知りたい宇宙の謎」という題で、800字(400字詰め原稿用紙2枚)程度の作文を6月13日(金)必着で国立天文台宛にお送りください。作文には、住所、氏名、生年月日、性別、電話番号、学校名、学年を明記してください。選考の結果は6月27日(金)までに各人宛に通知いたします。

宛先: 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1

国立天文台広報普及室

封筒の表紙に「君が天文学者になる4日間応募書類在中」と朱書きしてください。

国立天文台ホームページ

http://www.nao.ac.jp/index_J.html

内容:

7月23日 開校式、講義、研究テーマ決め、観測実習など

7月24日 データ解析、観測実習など

7月25日 データ解析、研究発表会など

7月26日 講評、施設見学、閉校式など

参加者4人でチームを組み、冷却CCDカメラと口径50センチ望遠鏡を使用する観測をはじめ、研究テーマを決めることから、データ解析、研究発表まですべて参加者自身に体験していただく天文学の実習です。若い研究者たちと一緒に観測、データ解析、討論等を行うことで、研究者の日常や研究の進め方を体験し、研究最前線の雰囲気を味わえることが特徴です。※お問い合わせは、広報普及室 縣(あがた)宛にお願いします。

Tel: 0422-34-3644 e-mail: h.agata@nao.ac.jp

この活動は、子どもゆめ基金(独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター)助成活動によるものです。

(「君が天文学者になる4日間」実行委員会)

共同利用・共同研究

国立天文台 野辺山宇宙電波観測所 共同利用観測プログラム公募案内

野辺山宇宙電波観測所では、以下の観測プログラムの公募を行います。カバーシートの変更等もありますので、最新の詳しい情報はホームページ(<http://www.nro.nao.ac.jp/openuse/> 5月6日より更新されます)をご覧ください。各観測プログラムと締切は以下の通りです。なお、送付方法はe-mail又は郵送でお願いします。

〈野辺山45m鏡〉

第22期共同利用観測(2003年11月~2004年5月)

・一般前期: 2003年6月5日(木) JST15時

・長期共同利用: 2003年6月5日(木) JST15時

・一般後期: 2003年10月23日(木) JST15時

・Short Program 前期: 2003年11月17日(月) JST15時

・Short Program 後期: 2004年2月2日(月) JST15時

〈野辺山ミリ波干渉計〉

第17期共同利用観測(2003年11月~2004年5月)

・長期共同利用: 2003年6月5日(木) JST15時

・一般共同利用: 2003年7月2日(水) JST15時

・Rainbow 共同利用: 2003年7月2日(水) JST15時

国立天文台野辺山宇宙電波観測所

所長 中井直正

会務案内

【理事会議事録】

日時: 2003年3月24日(月) 12時00分~13時40分

場所: 東北大学川内北キャンパス会議室

出席者: 松田, 祖父江, 若松, 杉山, 郷田, 関井,

松原, 蜂巢, 土橋, 土居, 田, 谷口, 粟木, 佐藤

欠席者: 花見

有効委任状提出者: なし

議事に先立ち、署名人を選出した。

議長: 松田卓也

署名人: 郷田直輝, 杉山 直

報告

1. 前回議事録の確認(資料1)

郷田理事より前回(2003年1月11日)の理事会議事録が報告され、原案通り承認された。

2. 2003年春季年会について

開催中の年会の講演数、ポストデッドライン、記者会見などの基本事項について、土居理事より報告があった。また次回以降、公演数の増加している恒星のセッションから高密度天体分野を独立させるとの旨、報告された。公開講演会について、100名ほどの出席者であったなどの報告が谷口理事よりあった。

3. 第19期日本学術会議会員候補者等の選挙結果について(資料2)

選挙結果と、その後の評議員会の選考結果が杉山理事より報告された。会員候補者、推薦人、推薦人予備者は次のように決定された。

会員候補者：一位候補者 池内 了

二位候補者 海部宣男

推薦人：観山正見，牧島一夫

推薦人予備者：小杉健郎

4. その他

(ア) 佐藤明達氏より早川基金に500万円のご寄付をいただいた。

(イ) 開催中の年会の記者会見に関して、土居理事より報告があった。今後の記者会見のやり方について、意見交換が行われた。

議題

1. 新入会員の承認（資料3）

杉山理事より、資料に基づき、年會会場での入会申し込み者も含め、新会員の入会が承認された。あわせて、退会者の報告があった。

2. 秋季以降の年會について

2003年秋季年會について栗木理事より準備状況について報告があった。全会場にプロジェクターを用意した。また、公開講演会について、愛媛県教育委員会、松山市教育委員会、愛媛県創造科学博物館、NHK松山放送局、南海放送、朝日新聞松山支局、読売新聞松山支局、毎日新聞松山支局（回答待ち）について共催が承認された。2004年春季年會については、佐藤理事より、3月21日(日)に記者会見と公開講演会、22日から24日までが年會という日程で開催されることが報告された。

3. 記念出版編集委員について（資料4）

岡村編集委員長より提案のあった編集委員案について、現在正会員でない二名の方を除いて、承認した。

4. 学術会議主催、小柴先生記念シンポジウム共催について（資料5）

標記シンポジウムについて、杉山理事より説明があり天文学会が共催となることが認められた。

5. 林賞の記者会見について（確認）

前期理事会で、受賞者本人を記者会見に呼ぶということを決めたが、今回は事情により、理事長が代理で行った、との報告が郷田理事よりあった。賞の権威を高めるためにどうすればよいのか、などの議論があったが、今後は、あえて本人を記者会見に呼ぶ必要はない、との結論に達した。

6. その他

(ア) 声明：天文・宇宙に関する生涯学習の場の確保を（資料6）

杉山理事より、西はりま天文台黒田氏より天文学会に声明文の発表依頼があった標記声明文に関して、依頼の趣旨が報告された。その後、意見交換が行われた。声明文は、A4一枚程度に文章を短くして補足資料をつける形にすべきである、対象が明確

に絞りきれていない、一方で天文学会としてこの問題を軽々しく考えてはいけない、公共施設と企業（たとえばサンシャイン）を区別して考えるべきである、などの意見がだされた。結論として、声明を出すことに対しては前向きであるが、若松理事、佐藤理事、黒田氏で原案をもう少し検討するという事になった。

(イ) 名誉会員について

杉山理事より、名誉会員の制度の活用に関する提案があった。そこで名誉会員の資格や具体的な候補者などについて議論が行われ、次の評議員会でも意見を聞くことになった。

(ウ) PASJ 海外取次店倒産の件

PASJ 取次店の倒産のため、PASJ が海外で配布されていない件（最大44件）について、蜂巢理事より報告された。丸善より、これを無料で配布したい、との要望があり、蜂巢理事より無料配布の提案があった。議論の後、承認した。

(エ) Tennet について

郷田理事より、鈴木知治ネットワーク委員からの tennet の配布資格についての提案が報告された。現状では天文学会だけではなく、関連学会の会員の登録を認めている。天文学会については、退会した場合にサービスを止めているが、関連学会については、退会などの事情を調べることが困難であり、この際、関連学会については原則として配送しない、ということにしたいとの旨であった。現在では、天文学会会員でなくとも、Web 上でアーカイブを見ることが可能なので、今後は関連学会については、はずすことと決定した。

(オ) 今回の天体発見賞選考委員会の選考結果に対して、一部会員からクレームがついた問題について理事会、評議員会とも、今回の選考についての正当性を確認したことが理事長より報告されるとともに、意見交換を行った。無用の疑義を招かないよう、選考結果の公平性を十分に示す必要がある、などの意見がでて、理事長が山岡選考委員長にも意見を伝えることとなった。

(カ) 次回は6月28日(土)11時から、国立天文台（三鷹）で開催する。

2003年4月28日

議長 松田卓也 印
署名人 郷田直輝 印
署名人 杉山直 印

【評議員会議事録】

日時：2003年3月25日(火) 12時30分～13時30分

場所：東北大学川内北キャンパス会議室

出席者：井上，太田，岡村，海部，小山，柴田，須藤，
福井，舞原，牧島，吉井，家，池内，木下，小杉，
佐藤（勝），高津，谷口，長谷川，林，松田，渡部
以上22名

欠席者：加藤，千田，高橋，高原，石黒，佐藤（修），
中村，野本 以上8名

有効委任状提出者：高橋，高原，石黒，中村，野本
以上5名

他に理事会から，祖父江，若松，杉山，郷田，関井，
松原，土居が参加した。

議事に先立ち，議長及び署名人を選出した。

議長：柴田一成

署名人：木下大輔，高津裕通

報告：

1. 前回議事録の確認（資料1）
一部字句を修正ののち，承認された。
2. 2003年春季年会について
開催中の年会に関して，講演数，参加者数などの基本事項が土居理事より報告された。また，記者会見とその後の報道状況に関しても報告があった。
3. 第19期日本学術会議会員候補者等の選挙結果について（資料2）

牧島評議員より，標記候補者の選挙結果，及び評議員会での選考経緯と結果について報告があった。会員候補者，推薦人，推薦人予備者は次のように決定された。

会員候補者：一位候補者 池内 了
二位候補者 海部宣男

推薦人：観山正見，牧島一夫

推薦人予備者：小杉健郎

4. 創立100周年記念出版事業編集委員会について（資料3）

杉山理事から理事会における標記編集委員会委員決定の経緯が報告され，また岡村評議員（編集委員長）から補足説明があった。今後，会員を対象に，内容に関するアンケートをとる予定であり，総会で岡村氏からアナウンスする予定である。

5. 天文月報編集委員の増員について
郷田理事より，ぐんま天文台の壽崎智佳（とさきともか）氏を，理事会で承認の上，編集委員に追加したことが報告された。
6. 今季総会について
杉山理事より，今季総会の議題などについて報告

があった。

7. その他

(ア) 声明：天文・宇宙に関する生涯学習の場の確保を（資料4）

杉山理事より，西はりま天文台黒田氏より天文学会に声明文の発表依頼があった標記声明文に関して，依頼の趣旨，理事会での検討結果が報告された。この原案を天文学会名で発表したいとのことであったが，若松理事，佐藤（修）理事が黒田氏とともに原案を練り直すというのが理事会の方針である。その後意見交換を行った。小杉評議員からは，自然科学の生涯学習はけっして天文学会だけの問題ではなく，他の関連諸学会と連携しつつ進めるという視点が重要であること，海部評議員からは，内容が茫漠としており，誰にどうしたいのかが明確でないとの指摘があった。

(イ) 日本学術会議天文学国際共同観測専門委員会アンケート

福井評議員より，標記専門委員会（委員長：福井評議員）が，国際共同観測に関するアンケートを行っているので協力をお願いする旨報告があった。

(ウ) 日本学術会議主催小柴記念シンポジウム

池内評議員より，5月14日学術会議講堂で行われる標記シンポジウムについて案内があった。特に若手に出席を勧めてほしいとのことである。

(エ) 春季年会ALMAセッション報告

長谷川評議員より，ALMAセッションに関して報告があった。270名の参加者を得て盛会であった。

(オ) 学生の旅費補助について

高津評議員から，正会員（学生）への旅費補助の継続に関する検討資料として，学生が所属している各研究室から旅費支給の実態調査を行っているとの報告があった。研究機関によって，科研費から学生の学会旅費が支出できるところとできないところがある，という状況が明らかになってきている。最終的な調査結果は，次回評議員会で報告する。

議題：

1. 総合科学技術会議に対する声明文について
関連諸学会と共同で標記声明文をまとめる件に関して，佐藤（勝）評議員から進行状況の報告があった。物理学会では，北原物理学会長が主導して，物理学会理事会で取り扱いを協議しているとのこと。さらにその後の物理学会の動きとして，須藤評議員（物理学会理事）より，北原会長が他のいくつかの学会に呼びかけ，トップダウン政策の問題点を指摘するだけではなく，現在議論が急ピッチで進められている科研費の審査・配分システムについてピア・レビュー制度を核とする現行制度の長所を危う

くすることのないように、という趣旨の声明文の改訂版を物理学会が中心となって準備しつつあることが報告された。天文学会としては、北原会長の案文をできるだけ早い機会に入手し、評議員会としてそれを検討し対応する。

2. その他

(ア) 名誉会員について

杉山理事より、名誉会員の制度の活用に関する理事会での議論の紹介があり、その後意見交換を行った。なかで、資格についての具体的な提案や、明確な推薦理由の必要性、学問業績だけでなく社会的、国際的貢献なども尺度にすべきである、などの意見が述べられた。また複数の評議員より、名誉会員の制度を運用することの難しさについて懸念が表明された。

(イ) 次回以降の日程

次回の評議員会は、7月5日(土)午前11時に国立天文台(三鷹)で行うことを確認した。次々回については、秋季年会中の9月26日(金)昼休みに開催する予定である。

2003年4月25日

議長 柴田一成 印
署名人 木下大輔 印
署名人 高津裕通 印

【春季通常総会議事録】

日時：2003年3月25日(火) 16時00分～17時00分

場所：東北大学川内北キャンパス会議室(A棟2F)

議長：松田卓也

議事に先立ち出席者の確認がなされた。事前投票総数(うち会場参加者との重複は除く)は289名、会場参加は156名、有効委任状提出者1名である。出席者のうちで事前投票をしたものは、事前投票の方を無効とした。結局、有効出席者総数は446で、定足数(正会員総数1460名の5分の1=292名)を満たしていることを確認した。

次に署名人として大橋隆哉氏、花輪知幸氏が選出された。

続いて各賞の授与式が行われ、各賞の選考委員会委員長による受賞理由の説明の後、以下の方々それぞれに賞が授与された。

天体発見賞 佐野康男、広瀬洋治、申田麗樹(2件)、土井隆雄、MISAOプロジェクト、長谷田勝美(2件)、板垣公一、池谷 薫、宇都宮章吾、鈴木雅之、工藤哲生

の各氏(13件, 11名)

天体発見功労賞 村上茂樹、藤川繁久、中村祐二、広瀬洋治、申田麗樹の各氏(5名)

天体功労賞 長期的な業績として広瀬敏夫氏、短期的な業績として早水 勉氏(2名)

研究奨励賞 大西利和、北山 哲、小久保英一郎の各氏(3名)

林忠四郎賞 福井康雄氏(1名)

欧文報告論文賞 受賞論文名: Metal Abundances in the Hot Interstellar Medium in Early Type Galaxies Observed with ASCA, 著者: 松下恭子, 大橋隆哉, 牧島一夫の各氏(1件, 3名)

なお、天体発見賞・天体発見功労賞受賞者を代表して土井隆雄氏がスピーチを行った。

議事の経過及び結果

1. 2002年度事業報告が郷田庶務理事より報告された(第1号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。

2. 2002年度収支決算報告および監査報告が、松原会計理事、吉澤監事より各々報告された(第2号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。

報告事項等

1. 創立100周年記念出版事業編集委員会について

杉山庶務理事より、理事会における議決を経て理事長が任命した編集委員が報告された。岡村編集委員長から、会員に対し今後のアンケート協力をお願いがあった。

2. 天文月報編集委員の増員について

郷田庶務理事より、ぐんま天文台の濤崎智佳氏を理事会で承認の上、編集委員に追加したことの報告があった。

3. PASJの製作および販売委託に関わるUAPとの紛争について

2001年春季通常総会でも説明がなされた標記事項に関して、郷田庶務理事よりこれまでの経緯が紹介された後、2003年1月20日に時効が成立し、無事に解決した旨の報告があった。

4. 日本学術会議主催小柴先生記念シンポジウムについて

杉山庶務理事から、5月14日天文学会共催で行われる標記シンポジウムに関する案内があった。

2003年4月28日

議長 松田卓也 印
署名人 大橋隆哉 印
署名人 花輪知幸 印

日本天文学会 2003 年春季年会報告

2003 年春季年会は 3 月 24 日(月)～ 3 月 26 日(水)の 3 日間、東北大学川内キャンパス(宮城県仙台市)にて口頭会場 7, ポスター会場 4 を使って開催された。講演件数は口頭講演が 314 件, ポスター講演が 224 件あり, 合計で 538 講演だった。これに加え, ポストデッドライン講演が 4 件, 最新情報コーナーが 2 件あった。年会参加者は 796 名(ジュニアセッションとあわせて 857 名)だった。開催地理事の谷口義明氏を中心とする東北大学の方々の尽力で順調に行われた。企画セッションはコンペナー制として「光赤外の将来計画とサイエンス」の企画セッションが開かれた。コンペナーは高見英樹, 児玉忠恭, 富田晃彦の 3 氏であった。

座長は次の 39 名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示す(敬称略)。

	3 月 24 日(月)		3 月 25 日(火)		3 月 26 日(水)	
	10:00-12:00	14:00-16:00	9:30-11:30	13:30-15:30	9:00-11:00	13:00-15:00
A	米徳大輔 (金沢大)	高田将郎 (東大)	三原建弘 (理研)	蜂巢 泉 (東大)	泉浦秀行 (国立天)	宮田隆志 (東大)
B	堀久仁子 (通信総研)	増田 智 (名大)	真柄哲也 (モンタナ大)	花岡庸一郎 (国立天)	家 正則 (国立天)	舞原俊憲 (京大)
C	関口和寛 (国立天)	吉井 譲 (東大)	千葉柁司 (国立天)	有本信雄 (国立天)	藤本龍一 (宇宙研)	
D	松元亮治 (千葉大)	斎藤正雄 (国立天)	大西利和 (名大)	富阪幸治 (国立天)	花輪知幸 (名大)	松本倫明 (法政大)
E	林田 清 (阪大)	亀野誠二 (国立天)	大石奈緒子 (国立天)	河野孝太郎 (東大)	西尾正則 (鹿児島大)	亀谷 收 (国立天)
F	中村 士 (国立天)	木下 宙 (国立天)	松原英雄 (宇宙研)	粟木久光 (愛媛大)	前田良知 (宇宙研)	深沢泰司 (広島大)
G	藤田 裕 (国立天)	服部 誠 (東北大)	須藤 靖 (東大)	太田耕司 (京大)		

< 記者会見 >

春季年会の前日, 3 月 23 日 13:30 から宮城県仙台市仙台国際センターで記者会見を行った。

松田卓也理事長より林忠二郎賞の紹介が行われた後, 以下のトピックスについての解説が行われた。4 社の報道機関の出席があった。

- (1) 「日本のアマチュア天文家の活躍続く一休天体発見賞, 発見功労賞者数, 最多に一」

記者会見発表者:

日本天文学会天体発見賞選考委員
委員長 山岡 均

(九州大学大学院理学研究院助手)

委 員 渡部潤一

(国立天文台天文情報公開センター助教授)

関連する講演番号:

総会での表彰・最新情報コーナー 2

- (2) 「ガンマ線バーストの衛星・地上連携観測一日本各地の望遠鏡がとらえた宇宙の果てのブラックホールのおぶ声」

記者会見発表者: 河合誠之

(東京工業大学大学院理工学研究科教授/
理化学研究所客員主管研究員)

関連する講演番号: N01a, N02a, N04a, N05a, N06a, N07a

< ALMA 特別セッション >

日本天文学会, 日本学術会議天文学研究連絡委員会, 同天文学国際共同観測専門委員会, 同電波科学研究連絡委員会 J 分科会, 国立天文台電波専門委員会 ALMA 計画推進小委員会の共同主催により, 3 月 24 日 16:00 から 18:00 まで開催された。今回は LMSA 特別セッションから通算し 7 回目であったが, これまでで最大の 280 名にのぼる参加者があり, 大変盛況であった。今回は「ALMA で探る宇宙星間物質: 初期宇宙から原始惑星系まで」をテーマに, 以下のプログラムが進められた。

1. あいさつ (天文研連委員長 池内 了)

2. 日本天文学会の取り組み
(日本天文学会理事長 松田卓也)
3. ALMA 計画の現状と今後
(国立天文台教授 長谷川哲夫)
4. ALMA で解き明かす星・惑星系形成環境下での物質進化—サブミリ波超高感度分光観測がもたらすインパクト—
(神戸大学助手 相川祐理)
5. 赤外線天文衛星と ALMA で探る星間物質
(宇宙科学研究所教授 中川貴雄)
6. 総合討論(司会 国立天文台助教授松尾 宏)

長谷川氏から ALMA 計画への日本参加案の説明とその予算獲得に向けた最近の情勢および活動報告がなされた後、相川氏、中川氏から、ALMA のサイエンスで大きな柱の一つである星間物質の研究について、それぞれの立場から展望をしていただいた。相川氏は、星形成領域や原始惑星系円盤での分子組成の時間的、空間的变化に注目し、特にサブミリ波帯での高感度・高解像度観測の重要性について講演された。一方中川氏は、ASTRO-F や SPICA といったスペースからの赤外線天文学と ALMA との相補性を、宇宙論的天体から惑星系円盤までの例をあげながらわかりやすく講演された。ミリ波・サブミリ波は高分散分光によって星間物質中に含まれる様々なガス種をとらえることができるユニークな波長帯であり、ALMA によってもたらされる星間物質の性質と進化に関する情報が、天文学だけでなく惑星科学や物理化学などの隣接分野にとっても大変有意義だということが確認された。また総合討論ではあわせて、ALMA の建設、運用をどのように進めていくかという点についても議論された。最後に、講演者および討論でコメントをして頂いた方々、並びに多数の参加者の方々と学会関係者に感謝する。世話人は池内了、長谷川哲夫、松尾 宏、百瀬宗武が務めた。

(百瀬宗武)

<ジュニアセッション>

第5回のジュニアセッションを開催した。今回も天文教育普及研究会には共催となっていたほか、日本惑星協会、宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台市天文台に後援していただいた。口頭発表のセッションは、3月26日の午前(9:00~11:00)および午後(13:00~14:00)に行われ、また会期を通じてポスターでも発表がなされた。口頭発表14件(うち11件はポスターでも発表)とポスター発表3件があり、合計17件の発表があった。口頭発表のセッションでは、参加者が170名ほどあり、質疑応答が活発になされた。また、日本通信機株式会社、日本大学総合学術情報セ

ンター、ライブ!ユニバースのご協力により、口頭セッションはインターネットで中継された。発表内容はどれも熱心に研究されたものであり、口頭発表の仕方やポスターのまとめ方などもすぐれたものが多かった。なお、口頭セッションの司会は、西村昌能氏、柴田晋平氏、直井雅文氏、亀谷 収氏、岡村典夫氏、土佐 誠氏にお願いした。セッション参加者には各研究発表についてコメントを書いてもらったり、アンケートに回答してもらったりした。今回のジュニアセッションでも、上記の諸機関の方々に加えて、開催地のスタッフの方々に多大なご協力をいただいた。ここに協力していただいたすべての方々に感謝の意を表したい。

(吉川 真)

<天文教育フォーラム>

「21世紀型科学教育の創造—プラネタリウム館・公開天文台の社会的役割—」というテーマで、天文教育普及研究会と共催で3月26日(14:00~15:30)に行われた。参加者は約100名であった。まず、西はりま天文台の黒田武彦氏に、プラネタリウム館・公開天文台を初めとする天文関係の学習施設の現状の説明していただいた。次に、日本プラネタリウム協会の山田陽志郎氏には、同協会がプラネタリウム関連施設を対象に行った「総合的な学習」への支援の実態調査のためのアンケート調査結果を紹介していただいた。国立天文台の縣秀彦氏には、海外の同様の施設の実態調査に基づいて、内外の施設のあり方の具体的な違いについて報告をしていただいた。また、総合討論では、現状打開の方策について有益な議論が交わされた。

(沢 武文、山縣朋彦)

<公開講演会>

講演会のタイトルは「21世紀の天文学を楽しむ」で、3月23日(日)14:00より仙台市国際センターで開催された。松田卓也理事長(神戸大学教授)の挨拶の後に、まず黒田武彦氏(西はりま天文台公園園長)の講演「宇宙の歩き方」があった。タイトル通り、宇宙を歩くための道具である双眼鏡や望遠鏡と、歩く手助けになる天文台の説明から始まり、宇宙のみどころについては月から銀河、銀河団が、すばるによる美しい天体写真によって多数紹介され、聴衆を魅了した。また宇宙を唱った詩の解説もなされ、終始ユーモアたっぷりに講演が進められた。

休憩後には、海部宣男氏(国立天文台長)により「宇宙の読み方」と題する講演が行なわれた。見ることと観測することの違いをシャーロックホームズの例を用いて話され、宇宙の中の球や円盤、ジェット

など色々な形をした天体を眺めることで、それらを作るための力を観察し、「星はなぜ丸いんだろう」という素朴な疑問から、宇宙の読み方、理解の仕方について、講演が進められた。電磁気力や重力などの用語を使いながらも、身近な例を用いるなど、分かり易い解説がなされた。

入場者は100名で、各々の講演の後は熱心な質問が出て、興味を持って聴かれていたことを伺わせた。熱気溢れる雰囲気の後、講演の終了後には、講演者と記念撮影の様子も見られた。

(田 光江)

<通常総会>

「春季通常総会議事録」(363頁)を参照。

<懇親会>

懇親会は3月25日(火)18:30～20:30に、東北大学川内北キャンパス内の大学生協食堂において開催された。参加者は370名であった。東北大学大学院理学研究科長の鈴木厚人氏の歓迎の挨拶、理事長の松田卓也氏の挨拶のあと、森本雅樹氏の乾杯で始まった。懇親会終了前には次回開催地を代表して愛媛大学の粟木久光氏による挨拶があった。

(谷口義明)

<保育室>

保育室は学会会場と同じ建物内にある教室を使用した。机と椅子を運び出し、畳8枚とカーベットのしいた。4家族、子供のべ9人の利用があった。保育者の派遣は(有)マミーズタイムに依頼した。準備にあたっては東北大学の李宇珉さんにご協力いただいたことを感謝する。

(加藤万里子)

(年会実行委員長：土居 守)

その他

オーストラリア、Stromlo山天文台募金について

天文月報3月号に告知しましたように、オーストラリア国立大学 Stromlo 山天文台の山火事被災に関して、天文台復興のための募金活動を春季年会会場にて行いました。多くの方々のご協力をいただき、総額17万円ちょうど(端数は理事有志が追加の寄付をしました)をオーストラリア国立天文台、Mt Stromlo Redevelopment Fundへ送金いたしました。寄付をいただきました皆様、ありがとうございます。ここにご報告させていただきます。

日本天文学会理事長 松田卓也

お詫びと訂正

5月号の人事公募結果に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

誤) 東京大学 理学系研究科 物理学専攻
正) 理化学研究所宇宙放射線研究室

5月号 p.246 に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

誤) 宇宙開発事業団
〒105-8060 東京都港区浜松町 2-4-1
正) 宇宙開発事業団
〒305-8505 茨城県つくば市千現 2-1-1

編集委員 土橋一仁(編集長)、上田暁俊、大石奈緒子、太田耕司、亀野誠二、濤崎智佳、藤田 裕、洞口俊博、増田 智
平成15年5月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報・欧文編集) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 E-mail: toukou@geppou.asj.or.jp DTP: 峯尾由紀子